

2023

5 MAY.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 74

2▶ 副院長就任のご挨拶

5▶ 診療部長就任のご挨拶

6▶ 看護部長就任のご挨拶

7▶ 内視鏡センター長就任のご挨拶

8▶ 脳神経外科部長就任のご挨拶

9▶ 消化器外科部長就任のご挨拶

10▶ 眼科部長就任のご挨拶

11▶ 新任ドクター紹介

立川病院 だより

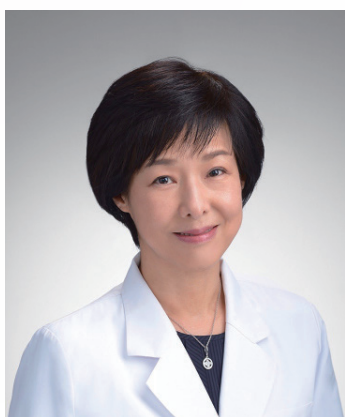


副院長就任のご挨拶

地域連携を頂いております皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび4月1日付けで立川病院の副院長を拝命致しました福積みどりと申します。

簡単ではございますが自己紹介とご挨拶をさせていただきます。私が初めて立川病院に勤務したのは平成2年のことで、当時のタイル張りの手術室で非常勤の麻酔科医師として上席医と一緒に勤務していたことがあります。以前の古い病院の建物や駐車場の周囲には病院とともに年月を重ねて大木となった桜の木が多くあり、当時から桜の名所として知られていたように思います。その後平成8年に常勤麻酔科医として入職して以来、主に周術期医療に携わり、平成27年からは診療部長の任を受けて務めて参りました。これまで皆様からは様々な場面でご指導を頂きましたことをあらためましてお礼申し上げます。



副院長
福積 みどり

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の対応を通じて、人と人のつながりの大切さを改めて実感することとなりました。当院においても面会制限をはじめとして、様々な講演会や企画の開催について見直しをせざるを得ない状況となり、患者さんやご家族をはじめとして地域の皆様には大変なご不便をおかけしました。今後は徐々にウィズコロナ、アフターコロナへと移行していくものと思われませんが、以前にも増して変化に応じた柔軟で迅速な対応が求められていると感じています。地域住民の皆さまに安全にそして安心して当院での診療を受けて頂けるように、種々の課題に取り組んで参りたいと思います。

現在の病院は2017年7月に竣工しオープン致しましたが、災害時への対応など新たな機能も加わり、職員はあらゆる場面でそれぞれの分野の専門性を発揮しチームとして最善の医療を提供するための努力を続けております。地域医療を支える一員として当院の役割を果すべく尽力して参りますので、引き続きのご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

病院の周りには新たな木々が植栽されており、この時期には美しい新緑を見せてくれています。これらの木々が以前の桜の大木のように育っていくように、立川病院もしっかりと連携の根をはり、病院機能、サービスが発展し「立川病院があって良かった」と地域の皆さまに思っただけの病院になれるよう、私も努力して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

副院長就任のご挨拶



副院長
森谷 和徳

新緑の候、客員医員の先生方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は立川病院の運営に多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

このたび、令和5年4月1日付けで副院長を拝命致しましたのでご挨拶申し上げます。平成11年に立川病院に循環器内科医として赴任し早24年になります。今後は副院長として病院全体の業務にかかわることになりますが誠心誠意全力を傾けていく所存でございます。先生方には今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

立川病院は、かかりつけ医の支援を通じて地域医療の確保を図る「地域医療支援病院」、災害時において主に重症者の収容・治療を行う「東京都災害拠点病院」、高度ながん医療を提供する「東京都がん診療連携拠点病院」、周産期に係わる高度な医療を提供する「東京都地域周産期母子医療センター」、二類感染症、新型インフルエンザ等の特別な対応が必要な感染症患者の収容・治療を行う「第二種感染症指定病院」など多くの指定を受け、東京都北多摩西部二次医療圏の基幹病院としての役割を期待されており、この期待に応えることが我々の使命と考えております。

医療を取り巻く環境は益々厳しくなっておりますが、地域の皆様に質の高い医療・介護サービスを受けて頂く体制を構築するためには、先生方とのさらなる連携強化が必要となります。今後も立川病院職員一丸となって地域に貢献してまいりますので、ご指導 ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学医学部卒、慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了（循環器内科学）。

慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科、国立埼玉病院循環器科を経て平成11年より国家公務員共済組合連合会立川病院に勤務。

博士（医学）。日本心臓財団日本心電学会木村栄一賞。

杏林大学医学部臨床教育准教授、慶應義塾大学医学部客員講師（医学教育統括センター）、東邦大学医学部医学科客員講師。

日本内科学会関東地方会常任幹事、総合内科専門医・指導医、日本循環器学会循環器専門医・指導医。

副院長就任のご挨拶

平素より地域医療連携にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

この度、立川病院副院長を拝命いたしました。これまで以上に当院が、地域医療チームの一員として役割を果たしていけるよう尽力する所存です。

高齢化社会、在宅療養者の増加、感染症・災害発生時への対応、かかりつけ医制度の整備、医療従事者の働き方改革と、医療現場には大きな変革の波がきています。急性期病院のあり方も変化してきています。迅速に診断および治療を行い、可及的短期間の入院で、これまでの生活への復帰ができるような診療や支援が求められています。また、地域の皆様が地域で生まれ・育ち・働き・亡くなってゆく、その中で健やかに過ごすことができるよう、急性期疾患の診療はもちろん、健康維持や健康教育にも貢献することが必要と考えております。



副院長
秋山 芳伸

当院は昨年東京都がん診療連携拠点病院に指定されました。日本人の二人にひとりが「がん」と診断されています。拠点病院の役割として、がんに対する教育・啓蒙、がん検診、診断、治療、さらに療養場所の支援を立川病院がんセンターが中心となっておこなっています。地域の皆様が、遠方へ通院することなく地域内で安心のがん診療が受けられる体制を整備しています。

高齢化の進む中、疾病分布も慢性疾患の割合が増えてくることが考えられます。慢性疾患の病状悪化時なども、早期に元の生活へ復帰できるよう、入院前から生活状況等の情報収集に努め迅速かつ的確な退院調整、さらに入院中に再入院リスクの評価・改善が進められるような体制も地域医療連携センターを中心に進んできております。

当院での診療情報を共有できるようにするための電子カルテシステムの共有も実施しています。今後は最新の医療DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応し、地域医療の中心となるITホスピタルを目指し、さらなる整備を進めてまいります。立川病院と地域医療機関でのシームレスな情報共有はもちろん、病院と患者間での予約状況や処方内容などのデジタルデータの共有なども検討してゆきたいと考えています。本年はホームページの改定を進めています。よりわかりやすく当院の診療の特徴や病院の情報を皆様にお伝えできるようにレイアウトも内容も一新する予定です。

まだまだ至らないことも多々あるかと存じます。当院の理念である「質の高い思いやりのある医療」を心に留め、患者さんの思いに寄り添った医療を進めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

診療部長就任のご挨拶

陽春の候、客員医員の先生方におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。令和5年4月1日付で診療部長を拝命致しましたのでご挨拶申し上げます。

平素より地域医療全般において多大なるご支援を頂き誠にありがとうございます。私は平成7年に山口大学医学部を卒業後、浦和市立病院（現さいたま市立病院）臨床研修医を経て慶應義塾大学医学部内科学教室に入局させて頂きました。その後呼吸器内科を選択し、カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校（UCSF）への2年間の研究留学期間を除き、一貫して臨床業務に従事して参りました。平成26年に立川病院へ赴任した後は、主に内科や呼吸器内科、感染制御部での診療に従事させて頂きました。新型コロナウイルス感染症診療におきましても長きにわたりお力添え頂き改めて深謝申し上げます。



診療部長
黄 英文

昨今の医療情勢においては、地域医療構想・働き方改革・医師偏在対策の三位一体改革の最中に新型コロナウイルス感染症が猛威を震い、医療体制や病院経営に大きな影響を与えました。先生方におかれましても大変なご苦勞をされたのではないかと推察致します。このような厳しい現実直面し、自分達は何を目指すべきか改めて考えた結果、導き出した答えは、「時代の変化の中で地域に必要とされる存在であり続ける」ことでした。そのためには急性期病院として、診療レベルのみならず医療安全や人材育成、業務の効率化、働き方改革、病院経営等全ての面で質を向上させることが不可欠です。

自らの組織を内側から磨きをかけ成長させる力が重要ですが、大切なキーワードは情熱とリーダーシップ（人々のやる気をかきたて、期待を上回る成果へと導く一連の行動・言動であり、全ての人々が持つポジティブな影響力）です。全職員が情熱を持ち、あらゆる場面でリーダーシップを発揮してもらえ環境を整えることが自分自身の役割だと考えています。病院のビジョンに対して真摯に取り組み、変革を進め成長していくことがとりもなおさず地域医療貢献に直結すると確信しています。

課題は数多くありますが、全職員一丸となって取り組んでいけるよう誠心誠意努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

看護部長就任のご挨拶

4月より立川病院の看護部長を拝命しました菱沼啓子でございます。私は、当院附属看護学校を卒業後、平成5年に立川病院に入職し、スタッフとして手術室で15年の経験を経て、主任、師長として10年間病棟管理を行い、管理師長となりました。平成29年からは看護部次長として、様々な人材育成の取り組みを行ってまいりました。振り返ると立川病院での経験は半生以上に及び、看護部長としての重責に身の引き締まる思いです。

現在、医療情勢は少子高齢化により労働人口の不足が一層深刻になっています。医療・介護の複合的なニーズが増し、限られた人員で効果的かつ効率的な医療・看護を提供することが求められています。患者さんが安心して治療を受けられるために、スタッフの人材育成を重視しています。介護福祉士の配置も拡大し、高齢者ケアに注力しています。

今年度開設予定の患者支援センターでは、入院前から多職種が介入し、一元的な情報収集と連携をすることで、患者さんの利便性向上や様々な課題解決に貢献することを目指しています。看護師の役割として、患者さんの自己決定を支援し、生活者としての尊厳を保ちつつ、安心して暮らし続けることを支援することが重要です。外来においては、認定看護師によるがん看護外来を開設し、がん患者さんの療養支援を充実させていく計画を進めています。

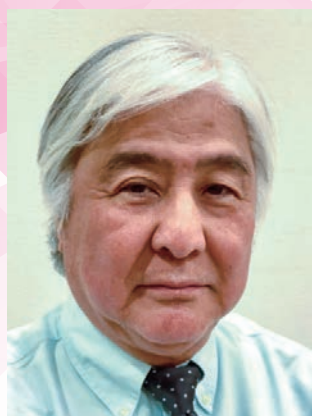
急性期病院の看護部門は、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を果たし、地域の皆様との連携強化が重要であると考えます。客員医員の先生方には、診療に加え看護にも信頼をいただけるよう努力します。さらに、医療DXやICTの利活用による環境整備も進め、客員医員の先生方がこれまで以上にご負担なく紹介いただける環境を整えることも必要であると感じております。

皆様のご支援を頂きながら、持てる力を尽くし、地域の皆様に信頼される医療機関を目指してまいります。スタッフの人材育成や、患者さんに寄り添った看護ケアを提供することに注力し、今後も努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



看護部長
菱沼 啓子

内視鏡センター長就任のご挨拶



内視鏡センター長・内視鏡科部長
大森 泰

内視鏡センター長、新設の内視鏡科部長として4月1日に赴任しました大森 泰と申します。

私は研修医終了後1986年に慶應義塾大学医学部外科学教室一般消化器外科食道班に所属し国立療養所神奈川病院外科・東京歯科大学市川総合病院外科・川崎市立川崎病院外科にて食道外科専門医として勤務してきました。同時に1986年に慶應がんセンターにて東海大学外科幕内博康先生に師事し内視鏡医としての道も歩むことになりました。2011年に川崎市立川崎病院外科部長より慶應義塾大学病院内視鏡センターにセンター講師/副センター長として異動するに伴い25年間続けてきた外科医・内視鏡医の二刀流を終了し内視鏡医専任となり、2015年より前職の川崎市立井田病院内視鏡センター所長（川崎市立川崎病院内視鏡センター兼務）/がん・総合健診センター所長として勤務してまいりました。

内視鏡では上部消化管、特に咽頭喉頭・食道・胃・十二指腸の早期がんの内視鏡診断と治療を専門としております。食道表在癌では1991年に第1例を経験後、現在までに約1600例の様々な切除例を経験しております。日本消化器内視鏡学会食道癌治療ガイドライン委員・食道がん取り扱い規約委員・日本食道学会拡大内視鏡委員会委員などを歴任し、内視鏡学会・消化器病学会・食道学会のセミナー講師等を通じて食道表在癌の内視鏡診断と治療について国内外での教育啓蒙普及に携わってきました。咽頭喉頭領域では2000年に本邦3例目（施設としては2番目）の下咽頭表在癌内視鏡切除を行い、現在では523例（2234病変）を経験しています。内視鏡的咽喉頭手術（ELPS）、壁深達度組織学名称などを考案し運用すると共に頭頸部がん学会表在がん委員会委員として頭頸部表在がん取り扱い規約・ガイドライン作成に携わり、食道同様に国内外で教育啓蒙普及を行ってきました。その他、早期胃癌・早期十二指腸癌の内視鏡治療を含めてこれまでに早期癌内視鏡治療約3200例を経験しております。また食道静脈瘤治療、食道アカラジアへの内視鏡治療、胃十二指腸静脈瘤治療、難治性癒痕狭窄に対する癒痕切除術、GERDに対するARMS/ARMA、画像強調拡大観察（NBI、TXI）なども行ってきました。

現在では内視鏡は消化器のみならず、呼吸器・泌尿器・産婦人科・整形外科・耳鼻咽喉科などにおいて低侵襲治療の主力手段となり、今後も更なる飛躍発展が予想される領域です。消化器領域では内視鏡は必要不可欠の診断治療ツールであり、特に消化管早期癌の内視鏡診断と治療は日本開発の画像強調内視鏡観察（NBI/拡大内視鏡）と内視鏡切除術（ESD）として世界に普及し、日本の消化管内視鏡はハード・ソフトの両面で世界のTOP-RUNNERとしての地位を保持しております。

立川病院内視鏡センターでは消化器内科・消化器外科・呼吸器内科・呼吸器外科による複数科/共同運用が行われてきましたが、今回、内視鏡科を創設し、より効率的な統合運用を行い内視鏡の更なる進歩発展に対応したいと考えております。

今後も内視鏡機材の更新、スタッフの増強と消化器内視鏡技術の向上を行い、東京都がん診療連携拠点病院、臨床研修病院における内視鏡センターとして安全な内視鏡検査と最先端の内視鏡診断治療を提供すべく進歩発展に努める所存です。皆様のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

脳神経外科部長就任のご挨拶



脳神経外科部長
杉山 一郎

前任の篠田正樹顧問の退職に伴い、令和5年4月1日付けで稲城市立病院から立川病院へ赴任いたしました。

私は1997年慶應義塾大学を卒業、1年間の外科研修医を経て脳神経外科学教室に入局しました。慶應義塾大学病院・関連病院での研修および学位修得の後、2004年から国立成育医療研究センター病院および西新潟中央病院てんかんセンターで、小児脳神経外科・てんかん外科をトレーニングしました。2007年にカナダトロント大学トロント小児病院へ留学、てんかんフェローとしててんかん患者のモニタリング・脳波解析・臨床研究に従事しました。2010年の東京都立小児総合医療センター立ち上げのために帰国、脳神経外科医長として小児の脳脊髄疾患、てんかんの治療に専従しました。その後2016年に前任地の稲城市立病院へ異動となり、稲城市立病院では成人・小児の一般脳神経外科診療、てんかん外科治療に従事しておりました。以上のような経歴から、脳神経外科領域でもてんかんおよび小児疾患を得意としますが、もちろん一般的な脳血管障害・脳腫瘍・外傷などオールラウンドに対応可能です。

またスポーツドクター・パラスポーツ医の資格も有し、日本オリンピック委員会医科学スタッフ・日本馬術連盟スポーツ医科学委員も兼務しております。一昨年の東京オリンピック・パラリンピックでは、組織委員会の選手用医療統括責任者として大会運営に参画しました。アスリートやスポーツに関連した脳神経疾患についても、ご相談いただければと思います。

今年度も立川病院脳神経外科は常勤医2名体制です。慶應医局から非常勤の支援を受けながらの診療となります。杉山自身が非常勤講師として10年以上慶應医学部学生の講義・実習を担当しており、また慶應病院てんかん専門外来も担当していることから、慶應脳神経外科との連携は極めて密です。立川病院で対応困難なケースに関しては、慶應病院はじめ周辺の大学病院・ハイボリューム病院等と連携し、患者さんにとって最良の治療方針を選択・提案して参ります。近隣の諸先生方におかれましては、安心して立川病院へご紹介下さい。

前述しましたように、今年度立川病院脳神経外科における昨年度までとの大きな変更点として、外科治療を含む難治性・薬剤抵抗性てんかん診療に対応できるようになります。日常診療でお困りのことがありましたら、ぜひ気軽にご相談ください。これからも安心・安全で信頼していただける医療を提供すべく、尽力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

消化器外科部長就任のご挨拶

令和5年4月1日付けで立川病院消化器外科部長を拝命いたしました似鳥修弘と申します。まずは、経歴について簡単に書かせていただきます。

私は、1998年に慶應義塾大学医学部を卒業し、外科へ入局しました。4年間の外科研修の後、2年間、国立がんセンター研究所病理部で腫瘍マーカーや、がんの浸潤・転移に関する研究に従事しました。その後、慶應義塾大学病院および関連病院で消化器外科および腹腔鏡手術を学び、2007年5月より国際医療福祉大学三田病院消化器外科講師として赴任しました。2014年より消化器外科准教授として、高度で先進的な医療を行うこと、質の高い、安全・安心な医療を実践することはもちろんですが、患者さんの痛み・苦しみがわかる医療者でなければならないと一人一人の患者さんの診療を通じて大学院生・医学生に教えてきました。三田病院には約16年間勤務しましたが、この度ご縁があり、立川病院へ勤めさせていただくこととなりました。



消化器外科部長
似鳥 修弘

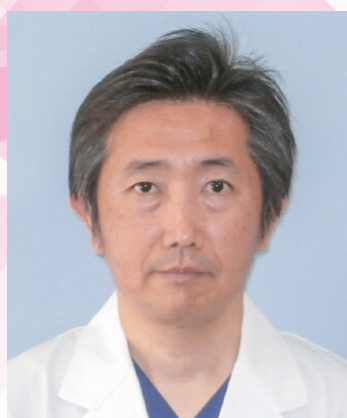
日本大腸肛門病学会専門医・指導医として主に大腸・肛門疾患を専門としており、また、日本内視鏡外科学会技術認定医として積極的に腹腔鏡手術を行ってきました。また、直腸がんに対しては機能温存と根治性を考えながら、肛門温存手術や化学放射線療法を含めた集学的治療を行ってきております。

また、外科医ではありますが手術だけではなく、痛みの少ない下部消化管内視鏡検査も得意としています。「挿入時間は短く、観察時間をしっかりと」をモットーに病変の早期発見に努めています。大きな大腸ポリープに対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行い、手術を回避することで機能温存を図ってまいりました。

立川病院では昨年より手術支援ロボットのda Vinci Xiが導入され、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科疾患だけでなく、大腸がんについてもロボット支援手術が徐々に導入されてきております。また、悪性疾患だけではなく胆石や虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの良性疾患にも迅速に対応して参ります。立川病院の消化器外科として、院長の片井均そして内視鏡科部長、内視鏡センター長の大森泰を中心に消化器外科医・消化器内科医で密に連携を取りながら診断から内視鏡治療、手術、化学療法、緩和ケアなどを行っていきたいと考えております。

立川病院が急性期病院としてフットワーク良く地域の先生方、患者さんに貢献できるよう誠心誠意努めていきたいと思っております。今後ともご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

眼科部長就任のご挨拶



眼科部長
内田 敦郎

2023年4月1日より、眼科部長に就任いたしました。この度は、このような重責を仰せつかり、大変光栄に思っております。この場を借りて、ご挨拶申し上げます。

私はこれまで国立病院機構 東京医療センターに半年間、埼玉社会保険病院（現：埼玉メディカルセンター）に約2年間、けいゆう病院に3年間、慶應義塾大学病院に約12年間にわたり眼科医として勤務し、大学病院では網膜硝子体外来を計11年間担当し、白内障手術および硝子体手術を多数経験させていただき、また米国フリーブランドクリニックではリサーチフェローとして網膜画像解析に関するトレーニングを3年間受けてまいりましたが、このたび立川病院の眼科部長の機会をいただきました。この4月からは野地将に加えて、日野市立病院から眼科部長の森川幹郎と慶應義塾大学病院から横溝真由美をお迎えすることができ、新しいチームとしてスタートできることをとても嬉しく思っております。

近年、眼科領域では加齢黄斑変性や緑内障など高齢者の目の病気の増加や、スマホやパソコンなどデジタル機器による目の負担、ドライアイの増加、学童期の近視進行などさまざまな課題に直面しております。立川病院の眼科は地域に根ざした診療を行ってきた歴史ある部署ですが、これらの課題にできる限り対応しつつ、より良い眼科医療を提供できるよう努めてまいります。これまで通り、白内障、網膜硝子体疾患、緑内障は特に力を入れていきたいと考えております。

白内障手術は近年、眼内レンズの種類や性能の向上、手術装置や検査機器の進化、小切開手術の普及などにより、安全性や治療効果が高まりました。白内障手術は患者さんの視力回復や生活の質の向上に大きく貢献しており、当院では年間約600例施行されております。直近の新たな試みとしては、従来よりも精度の高い眼内レンズ計算式を取り入れ、裸眼視力の向上につとめております。眼内レンズは単焦点眼内レンズが中心となりますが、眼鏡に依存する頻度を減らせられるように、乱視を軽減するトーリック眼内レンズや、保険診療で使用可能な2焦点眼内レンズに対応しております。

硝子体手術は、眼のなかの硝子体と呼ばれる組織を除去し、網膜硝子体の病気を治す手術です。近年は手術器具が細くなることで、傷口が小さく済むようになり、早期の視力回復が見込めるようになってきました。また精密にコントロールされる灌流圧供給システムで、より安全で確実な手術が可能になっています。糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、硝子体出血、黄斑前膜、黄斑円孔をはじめとする網膜硝子体疾患にはこれまで通り積極的に対応してまいります。そのほか抗VEGF薬の硝子体内注射を必要とする滲出型加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫につきましても、これまで通り、患者さんの社会的背景を考慮しつつ、最適な治療を提案できるように努めてまいります。

眼科のポリシーとしては、患者さんを中心とした医療を心がけるとともに、3S (Safe, Satisfactory, Specialized) medical care、すなわち、安全な医療、患者さんおよびスタッフの満足度が高い医療、専門的で質の高い医療を目指します。立川病院で手術を受けて良かった、と患者さんに思っていただけのような医療を提供できればと考えております。

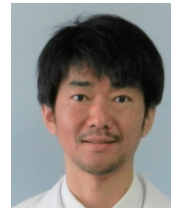
私自身、まだまだ未熟な部分が多くありますが、上記の医療を実現するために皆様のご支援とご協力をお願いいたします。また、関係各所の皆様にも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、前任の野村昌弘部長が築かれた立川病院の眼科のさらなる発展と地域医療の貢献にチームで一丸となって全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任◆ドクター紹介

新任の先生たちへのご質問

- ①先生の専門分野または得意とすること、進みたい方向
- ②地域の先生、患者さん、ご家族へのPR

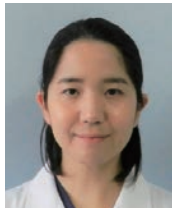


整形外科

西山 雄一郎

医長

- ①整形外科 脊椎脊髄疾患
- ②近隣の先生方と協力して周辺患者さんのQOL向上に努めます。



産婦人科

吉浜 智子

医長

- ①婦人科腫瘍、遺伝性腫瘍、産婦人科一般
- ②患者さんの気持ちに寄り添って、真摯に診療にあたります。



循環器内科

平松 卓

医師

- ①循環器内科
- ②適切な医療を提供すべく尽くしますので、協力お願い申し上げます。



呼吸器内科

光石 彬史

医師

- ①呼吸器内科一般、胸部悪性腫瘍
- ②地域の先生方と連携し最善の医療を提供できるように頑張ります。



呼吸器内科

柿本 知勇

医師

- ①呼吸器内科
- ②地域医療に貢献できるよう、努めて参ります。

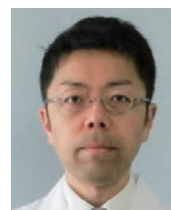


呼吸器内科

溝部 政仁

医師

- ①呼吸器内科を専攻しております
- ②地域の先生方からのご紹介をお待ちしております。



消化器内科

山根 剛

医師

- ①消化器内科（機能的腸疾患）
- ②地域に少しでも貢献できるよう努めたいと思います。

新任 医師 紹介



消化器内科

鍛治場 寛

医師

- ①消化器内科
- ②精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



消化器内科

勝海 愛

医師

- ①消化器内科
- ②医師4年目、消化器内科専攻医として立川病院に就職いたしました。立川に貢献できるよう尽力いたします。一年間と短い間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経内科

砂金 瑛実

医師

- ①頭痛やてんかんに興味があります。
- ②少しでも地域の皆さまに貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。宜しくお願いいたします。



脳神経内科

村松 茉莉奈

医師

- ①脳神経内科
- ②一昨年、こちらで内科として一步を踏み出し、再度戻って参りました。



血液内科

城下 郊平

医師

- ①血液内科
- ②宜しくお願い申し上げます。

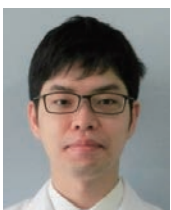


血液内科

坂元 美紀

医師

- ①血液内科
- ②地域に根ざした医療を行えるよう心がけます。

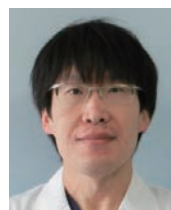


腎臓内科

熊谷 聡佑

医師

- ①腎臓内科
- ②立川の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



糖尿病・内分泌代謝内科

漆原 裕記

医師

- ①糖尿病・内分泌代謝内科
- ②教育入院などを通じて、糖尿病治療で連携できるように努力いたします。

新人の先生たちへのご質問

- ①先生の専門分野または得意とすること、進みたい方向
- ②地域の先生、患者さん、ご家族へのPR

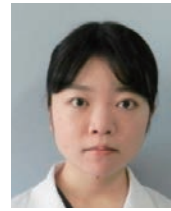


一般内科

生井 裕人

医師

- ①総合内科もしくは総合診療科の医師として将来活躍するために内科全般を手広く勉強したい。
- ②地域医療への貢献の為に見聞を広げていきたいです。

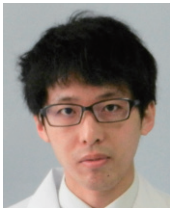


一般内科

射手矢 楓

医師

- ①一般内科
- ②精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

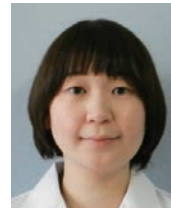


一般内科

小野田 怜依

医師

- ①今年度は一般内科として勤めますが、将来的には腎臓内科を専門にします。
- ②一般内科を幅広く診られるよう精進してまいります。



小児科

桂 美遥

医師

- ①小児腎臓を専門にする予定です。
- ②一般小児症例を幅広くみて経験を積み、地域に貢献したいです。



小児科

高田 ちひろ

医師

- ①小児科（専門：新生児）
- ②立川市の子ども達が笑顔で元気に過ごせるよう精一杯頑張ります。



小児科

松田 花穂

医師

- ①一般小児
- ②丁寧な診療を心掛けています。



消化器外科

井手 友里佳

医師

- ①乳腺外科
- ②1年間外科レジデントとして精一杯頑張ります。



整形外科

福田 将大

医師

- ①整形外科
- ②整形外科一年目の福田と申します。地域の皆様のお役に立てられるよう精進します。

新任 医師 紹介



整形外科

室谷 直樹

医師

- ①整形外科一般、救急科一般
- ②日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

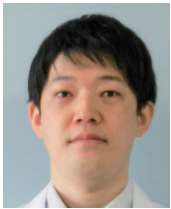


形成外科

最上 由基

医師

- ①形成外科
- ②最近立川病院に来ました。よろしくお願いいたします。

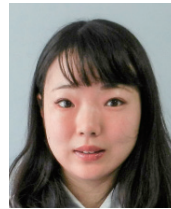


眼科

森川 幹郎

医師

- ①眼科一般、白内障手術、硝子体手術
- ②手術加療も積極的にやっていきたく考えております。



眼科

横溝 真由美

医師

- ①眼科
- ②フットワーク軽く、いろいろな手術に携わりたいと考えます。若輩者ですが宜しくお願いいたします。

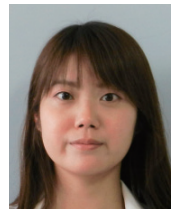


産婦人科

縣 博也

医師

- ①産婦人科
- ②妊婦さんや女性に寄り添った医療を提供できるようがんばります。

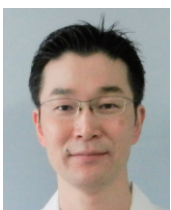


精神神経科

小林 優佳

医師

- ①精神科一般
- ②精神疾患また認知症に伴う症状など、お気軽にご相談ください、よろしいお願いいたします。

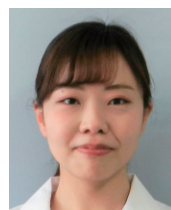


精神神経科

高野 寛明

医師

- ①小児の発達や緩和ケアや終末期に進んで参りたいと思っております。
- ②ご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



皮膚科

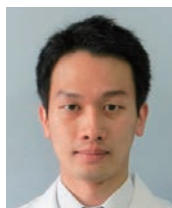
内川 理紗

医師

- ①皮膚科一般
- ②一人一人の患者さんに丁寧に向き合っていきます。宜しくお願いいたします。

新人の先生たちへのご質問

- ①先生の専門分野または得意とすること、進みたい方向
- ②地域の先生、患者さん、ご家族へのPR

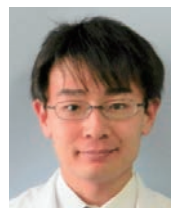


耳鼻咽喉科

宗 大貴

医師

- ①耳鼻咽喉科全般
地域医療への貢献
- ②父が千葉で開業しており、地域医療を大事に考えてきました。



泌尿器科

井上 洋輔

医師

- ①泌尿器科一般
- ②国立市出身です。地元の医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。

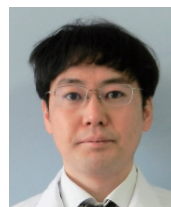


放射線治療科

舟越 和人

医師

- ①放射線治療一般
- ②放射線治療は頭のとっぺんから足のつま先まで照射可能です。



放射線診断科

筒井 聡一郎

医師

- ①画像診断
- ②多摩地区の医療に貢献して参ります。画像検査のご依頼お待ちしております。



麻酔科

乾 龍男

医師

- ①手術麻酔
- ②通勤徒歩圏内で、自分も家族と供に立川病院の医療圏で生活しております。公私ともに地域に貢献できるよう努めます。

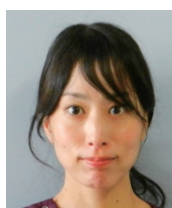


麻酔科

渡邊 美子

医師

- ①麻酔科
- ②他県から来たため土地勘はありませんが、地域医療の助けとなるよう、がんばります。

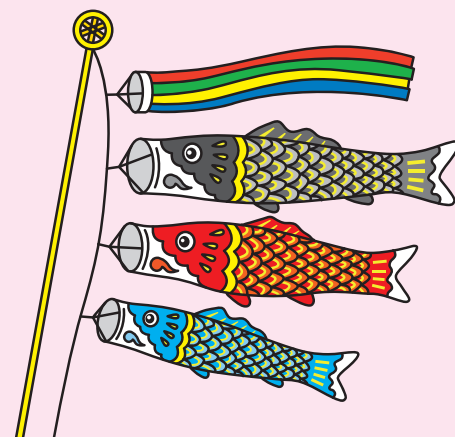


麻酔科

木村 明穂

医師

- ①麻酔
- ②未熟者ですが、良き医療を提供できるよう精進いたします。





ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和5年5月1日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160